

環境省「地球温暖化対策計画」等説明会（北海道ブロック） 平成28年10月7日（金）

愛林のまち 「津別町モデル地域創生プラン」



津別町イメージキャラクター
「まる太くん」

津別町 産業振興課

本日の内容

- **津別町はこんなまち**
- 森林資源を活用した取組み
- 津別町モデル地域創生プラン

津別町の概要



オホーツク海に面する北海道オホーツク総合振興局管内の東南部に位置し総面積は716.60km²

【地目別面積】

地目	森林	農地	宅地	その他	合計
面積(km ²)	622.66	64.82	3.13	25.99	716.60
比率	86%	9%	0.4%	4%	100%

【人口の推移】

平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年 (推計)	平成37年 (推計)
7,380	6,789	6,222	5,646	5,008	4,615	4,135

- 人口 昭和35年:15,676人
⇒ 平成28年(8月):5,019人
- 高齢化率 平成28年:42%

【交流人口】

- スポーツ合宿:延べ約4,000人
- 修学旅行等:延べ約300人

【観光資源】

- 木と触れ合う
木材工芸館・森林学習館 ほか
- 自然と触れ合う
津別峠・チミケツプ湖・ミズナラの巨木・森林セラピー基地 ほか

- 総面積の約86%を森林が占め、**林業・林産業が町の基幹産業を形成**
- 昭和57年に全国に先がけ「**愛林のまち**」を宣言
- 農業は小麦・甜菜・酪農・畜産が主で、近年では減農薬の馬鈴薯・玉葱栽培のほか日本初の有機畜産物JAS規格認証を取得した「**オーガニック牛乳**」を生産



津別峠からの雲海



津別町イメージキャラクター「まる太くん」



ラグビー合宿

津別町の森林概要

森林面積

1,390ha

2%

27,636ha

45%

24,784ha

40%

7,640ha

12%

合計: 61,450ha

■ 国有林 ■ 道有林 ■ 町有林 ■ 私有林

千ha

私有林

4,451 2,779 410

町有林

511

9

道有林

870

8,193

15,154

12

1,425

国有林

870

8,540

18,566

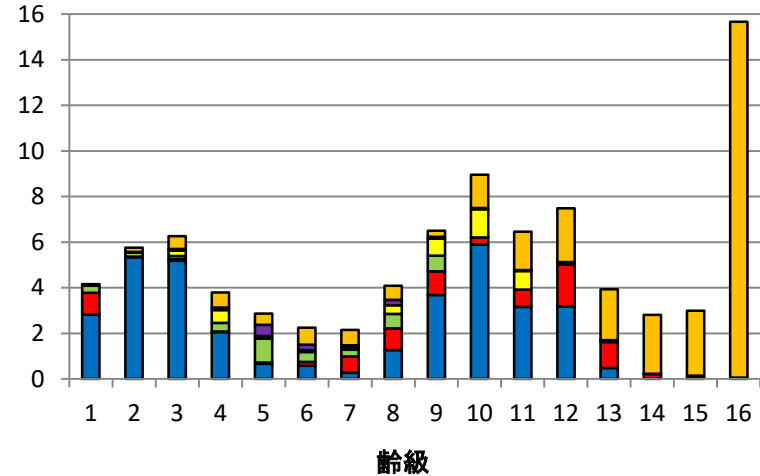
332

198

■ 人工林 ■ 天然林 ■ 無立木地 ■ その他

一般民有林の森林資源構成 樹種別・齢級別

百ha

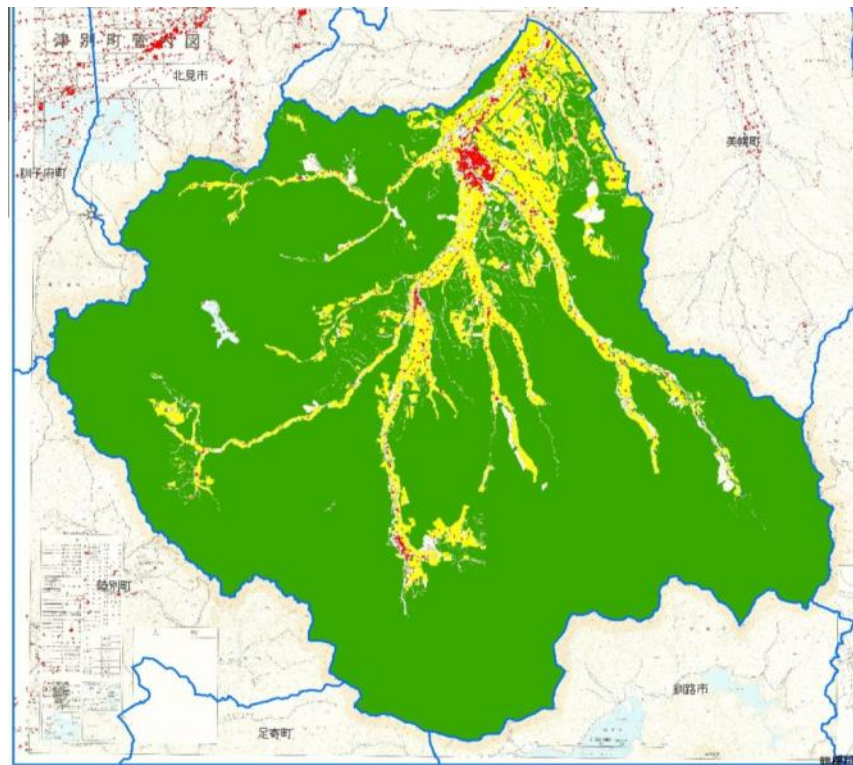


- 津別町の森林は、**国有林、道有林で86%**を占める。
- 恵まれた森林資源により林業・林産業が町の基幹産業を形成(**造林・素材生産業5社、木材加工業13社**)

津別町の森林概要



帯広市の面積
61,934ha



津別町の森林面積
61,450ha

津別町の森林の主な針葉樹



エゾマツ



トドマツ



カラマツ

チミケツプ湖の紅葉



カラマツ人工林の紅葉



つべつの新スイーツ



旧相生駅を活用したカフェ



道の駅あいおい

津別町の木材加工業

株式会社 山上木工



新千歳空港の木製クマ

津別町の木材加工業

加賀谷木材株式会社

木工工作キット



100種類以上の工作キットがあります。



木工工作キットの新作！



2015年度木工工作キットのご紹介。作って楽しい！遊んで楽しい！新商品を見る ▶

経木容器製作致します！



お客様のご要望をお伺いしながら経木容器・折箱を製作します。経木折箱づくりには多くの実績がございます。お気軽にお問い合わせ下さい。
[経木折箱のページ ▶](#)

クラフト・教育用の工作材



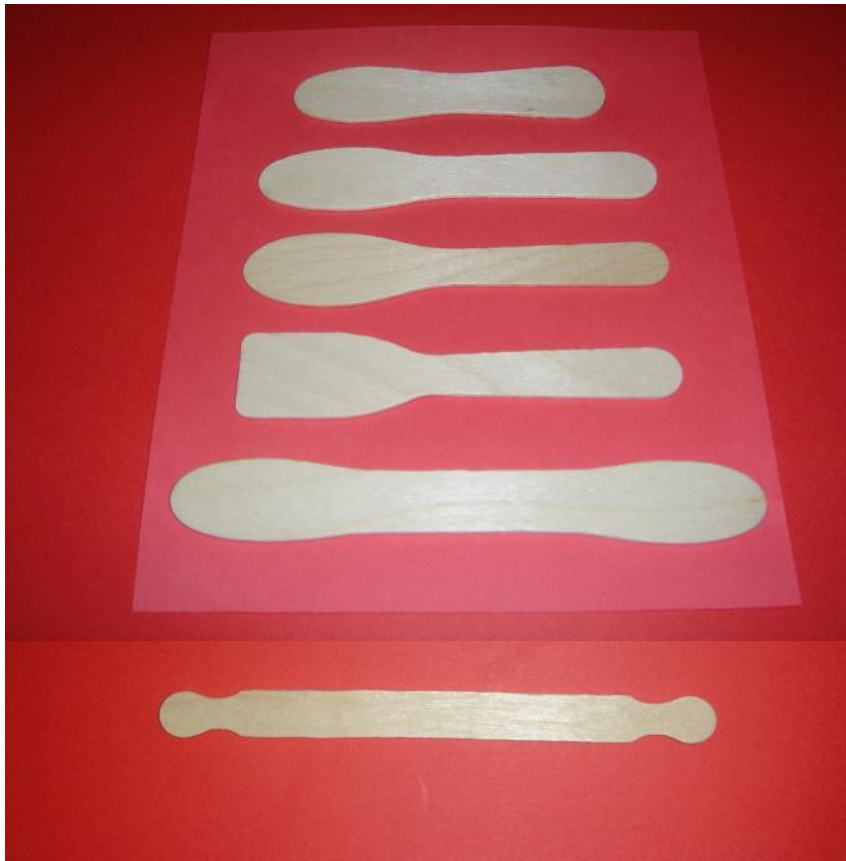
木工工作キットを作る弊社が自信を持っておすすめする「ものづくり」に最適な製材。ホームセンター、学校等で利用されています。
[DIY製材のページ ▶](#)



崎陽軒のシュウマイ弁当の容器
実は・・・津別の企業が作ってます。

津別町の木材加工業

相富木材加工株式会社



※舌圧子のイメージ写真

冷菓用、医療用スプーン、
舌圧子の
国内メーカーは**ここだけ!**

丸玉産業(株)と津別単板協同組合

丸玉産業株式会社津別工場

従業員 178名

製品 構造用合板(床・壁・屋根)、フロア合板、造作部材、下地材

生産量 18万m³/年

津別単板協同組合

従業員 139名

設立 平成11年(丸玉産業(株)、北海道森林組合連合会ほか)

製品 合板用単板

生産量 18万6千m³/年



丸玉産業株式会社(津別単板協同組合) バイオマスエネルギーセンターの概要

- 平成19年度にバイオマスエネルギーセンターを整備
- 工場の合板製造過程で発生する木くずを燃料としたコージェネレーション設備によって、工場で使う熱と電気をほぼ全量供給
- 北海道新エネルギー促進大賞(H20)、新エネ大賞・経済産業大臣賞(H20)新エネ百選(H21)など表彰を受賞

コージェネ性能について



ボイラー棟

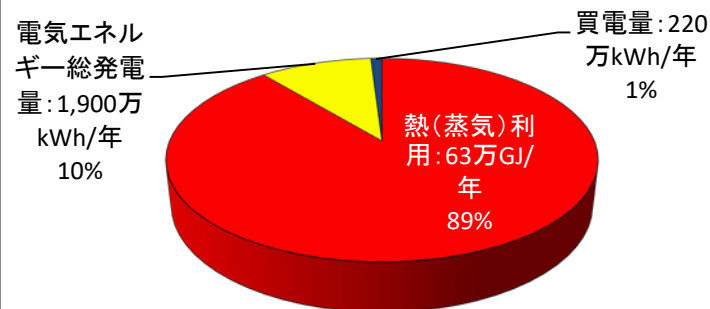
常用圧力：5.9MPa
蒸気量：70 t/h
蒸気温度：450℃
燃料消費：15 t/h



抽気復水タービン & 発電機

電圧：6,600V
発電量：4,700 kW/h

丸玉産業(株)エネルギー利用状況 (H19年度実績)



- 化石燃料を原油換算で 24,000kL/年削減
 - 一般家庭の 16,000戸/年相当
- CO2で69,000t/年削減
 - トドマツ50年生20万本分

本日の内容

- 津別町はこんなまち
- **森林資源を活用した取組み**
- 津別町モデル地域創生プラン

愛林のまち緑資源を守る推進事業

- 丸玉産業株式会社より寄付を頂き、「丸玉産業森づくり基金」を設置。
- 本基金を活用し、町単独補助制度として取り組んでいる「愛林のまち緑資源を守る推進事業」の**資金源として運用**。
- 本基金により、**助成内容が充実**し、造林、保育、野鼠、林地流動化事業等を実施。

「丸玉産業森づくり基金」の運用状況

「愛林のまち緑資源を守る事業」助成内容

- 造林事業
町内の標準造林事業費の97%を上限として補助する金額とし、実行経費が標準事業費を下回った場合はその額とする。
※ 地ごしらえ（伐採跡地の整地）、苗木の植え付け
- 下刈（1回刈 全刈～8,000円/ha・2回刈 全刈～24,000円/ha
※ 植栽した苗木の生育を妨げる雑草や灌木を刈り払う作業
- つる切り・除伐 ～18,000円/ha
※ 育成の対象となる樹木の生育を妨げる他の樹木や、つるを刈り払う作業
- 初回間伐 ～25,000円/ha
※ 育成の対象となる樹種の混み具合に応じて、一部の樹木を伐採する作業
- 野鼠駆除 ～1,000円/ha
※ 植栽木の野ねずみによる食害を防ぐための薬剤散布
- 林地流動化対策事業
造林を目的に山林を購入し、造林を行ったものに対し、林地流動化助成金として10,000円/haを上限に標準地価相当額を交付する。



事業種	平成25年度		平成26年度		平成27年度		
	面積 (ha)	助成金額 (千円)	面積 (ha)	助成金額 (千円)	面積 (ha)	助成金額 (千円)	
造林事業	96.34	1,767	82.28	5,908	82.62	3,888	
育保	下刈	283.31	2,693	262.91	2,433	202.83	2,565
	除伐	123.35	1,868	89.38	1,410	0	0
	間伐	2.47	62	0	0	122.63	3,007
野鼠駆除	885.18	885	746.72	746	737.33	738	
林地流動化	30.69	307	17.22	172	0	0	
合計	1421.34	7,582	1198.51	10,669	1145.41	10,198	
基金 充当額		1,982		2,869		2,802	

森林管理認証(SGEC)

- 本町の森林面積の**約90%**が「**SGEC認証林**」。
内訳：国有林45%、道有林40%、町有林2%、民有林3%
- 町内の**素材生産業3社、製造業5社、工務店2社**がSGEC-CoC認証を取得。
- 平成27年度より「**津別町森林管理認証取得支援事業**」を設け、認証取得費用と更新費用の**半額**を助成。※毎年実施の定期審査は対象外。
- 平成28年度より既存の住宅建築支援制度に**認証材の使用に対する加算措置**を開始。



オフセットクレジット(J-VER)制度

- プロジェクト名 「北海道津別町による町有林内における間伐推進を図りながらの森林CO₂吸収促進事業」
- 町有林 **約230ha** の間伐森林が対象。
- 発行クレジット量 **4,693 t-CO₂**
- 販売単価 **10,800 円/t-CO₂**
- 販売実績



木製の感謝状

年度	販売クレジット量	購入団体数
平成25年度	800 t-CO ₂	7 団体
平成26年度	778 t-CO ₂	8 団体
平成27年度	705 t-CO ₂	9 団体

東京都港区との取組み

- 森を持つ津別町は、森がない**港区**と「**国産材の利用促進に関する協定**」を平成23年7月8日に**締結**。



- 港区は、**みなとモデル二酸化炭素固定認証制度**を創設。
- 全道で**5自治体**が加入。
下川町、滝上町、津別町、豊富町、紋別市
- 全国で**73自治体**が加入。



佐藤 津別町長

武井 港区長

津別町バイオマス利活用の取組経過

取組項目	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
有機質資源の活用	・堆肥製造施設整備(家畜排泄物、木屑堆肥化)			・生ごみ、下水道汚泥堆肥化											
森林資源の活用							・バイオマスタウン構想策定		・木質ペレット製造施設整備	・庁舎等公共施設へのペレットボイラー導入	・ペレットストーブ導入支援	・津別町森林バイオマス利用推進協議会設置	・津別町森林バイオマス熱電利用構想策定	・津別町森林バイオマス熱電利用構想調査	
関連取組												・森林J-VER認証取得	・町有林森林管理認証(SGEC)取得		
町計画								・第1期地球温暖化対策実行計画	・津別町住生活基本計画	・第5次津別町総合計画				・第2期地球温暖化対策実行計画	・津別町環境基本計画
その他							・丸玉産業バイオマスエネルギーセンター稼動	・丸玉産業森づくり基金運用開始							

本日の内容

- 津別町はこんなまち
- 森林資源を活用した取組み
- **津別町モデル地域創生プラン**

「低炭素・循環・自然共生」地域創生実現プラン策定事業



「低炭素・循環・自然共生」地域創生実現プラン策定事業

平成27年度予算(案)額
350百万円(新規)

背景・目的

- 地域においては新たなエネルギー需給システムの構築等による低炭素地域づくりを追求する動きと併せて、地域資源を活用した環境投資促進、他地域とのネットワーク形成による地域資源循環圏の実現、魅力ある生活・交流空間創造等を通じて雇用の創出や地域活性化を目指そうとする動きが活発化している。
- 地域において低炭素・循環・自然共生を統合的に達成し、まち・ひと・しごとの創生を図っていくため、地域における当該検討の際に目指すべき地域の将来像とその実現に向けたプラン策定のあり方を示すとともに国の支援策をとりまとめる。

事業概要

- (1) 「モデル地域創生プラン」策定事業(280百万円)**
20地域程度の地域についてモデル地域創生プランの策定を支援し、低炭素・循環・自然共生地域の創生と地域・経済等活性化を実現する「モデル地域創生プラン」を策定する。
- (2) 評価指標化検討事業(35百万円)**
(1)のプランの進捗や目標達成度を分かりやすく示す指標を設定し、プラン実現による成果目標を明確にする。
- (3) 全国プラン策定事業(35百万円)**
(1)のプランを地域特性により類型毎に整理し、2050年CO₂80%削減を前提に、低炭素・循環・自然共生社会の実現に向けて、今後5カ年の支援策をとりまとめる。

事業スキーム

委託対象：民間団体
実施期間：2年間

事業目的・概要等

【「モデル地域創生プラン」イメージ】

イメージ

● 都市型事業パッケージ



● 地方型事業パッケージ



● 都市・地方連携型事業パッケージ



期待される効果

- 低炭素な地域エネルギーの導入支援策を構築。
- 環境対策で地域経済循環を拡大し、地域活性化を実現。

対象地域(採択地域)

「低炭素・循環・自然共生」地域創生実現プラン策定事業選定地域マップ

※写真はこれまでの取組



津別町モデル地域創生プラン

「豊かな自然とともに育む環境のまち・つべつ」

環境省総合環境政策局委託 平成27年度「低炭素・循環・自然共生」
地域創生実現プラン策定事業委託業務（津別町モデル地域創生プラン）にて作成

津別町概況

■町章

ツ別の文字を図案化。
中央のツは森林の町としての
山を、中央の白地は山麓に連
なる沃野を表し、躍進・津別を象
徴しています。



■町名の由来

アイヌ語の「ツベツ(山の出ば
なを通って流れる川)」が通説
となっています。

■位置

北海道東部オホーツク圏の内
陸部に位置し、東西37.2km、南北
34.1km、総面積約716.60km²
に及び全道屈指の広範な町域
を有しています。



■人口 5,231人
(平成26年12月末時点)

■産業構造総面積

- ・約86%を森林が占め、林業・
林産業が町の基幹産業を形成。
- ・昭和57年に全国に先がけ「愛
林のまち」を宣言。
- ・農業は小麦・甜菜・酪農・畜産
が主で、近年では減農薬の馬
鈴薯・玉葱栽培やオーガニッ
ク牛乳を生産。

《発行元・お問い合わせ先》

一般社団法人 産業環境管理協会 製品環境部門
TEL: 03-5209-7825 FAX: 03-5209-7716
JEMAI-WEB: <http://www.jemai.or.jp>

北海道津別町 産業振興課
E-Mail: sangyo1@town.tsubetsu.hokkaido.jp
TEL: 0125-76-2151 FAX: 0152-76-2976

津別町モデル地域創生プラン 概要パンフレット

「豊かな自然とともに育む環境のまち・つべつ」

このパンフレットは、環境省「環境省総合環境政策局委託 平成27年度「低炭素・循環・自然共生」地域創生実現プラン策定事業委託業務」の成果として作成されています。



平成28年3月

津別町モデル地域創生プラン

「豊かな自然とともに育む環境のまち・つべつ」

1. 津別町の目指す将来像

「豊かな自然とともに育む環境のまち・つべつ」

<基本目標>

- ① 地域資源を活用した再生可能エネルギーの導入・利活用
- ② 持続可能な循環型・低炭素社会の構築
- ③ 自然環境と調和した暮らしとまちづくり



津別町の
イメージ
キャラクター
まる太くん

2. 津別町における再生可能エネルギー施策の取組と現状

- 平成19年度 津別町バイオスタウン構想策定
丸玉産業株式会社(津別単板協同組合)
バイオマスエネルギーセンター運用開始
- 平成21年度 津別町木質ペレット製造施設稼働
役場庁舎等公共施設に木質ペレットボイラー導入
- 平成23年度 津別町森林バイオマス利用推進
協議会設置
- 平成24年度 津別町森林バイオマス
熱電利用構想策定
- 平成27年度 津別町モデル地域創生プラン策定



丸玉産業株式会社(津別単板協同組合)



木質バイオマス導入施設(平成27年度現在)【既存施設】

モデル地域創生プランとは？

低炭素な地域エネルギーの活用等を中心に「低炭素・循環・自然共生」を統合的に達成することにより、環境・経済・社会に関する様々な地域の課題解決に取り組もうとする構想です。

3. モデル地域創生プランで今後取り組む事業

① 公共施設等への再生可能エネルギーの導入

- ・西町団地プロジェクト
公営住宅の木質バイオマスによる集中暖房システムの整備
- ・再生可能エネルギー等の導入促進
既存公共施設等における熱利用設備の木質バイオマスボイラーへの転換
- ・まちなか再生プロジェクト
役場庁舎の複合化に伴う、木質バイオマス等の再生可能エネルギーシステムの構築

② 公民連携による木質バイオマスを活用した熱エネルギーの供給

- ・津別町再生可能エネルギーマネジメントセンター(仮称)の設置
再生可能エネルギー導入のマネジメントを請け負う公民連携事業体の設置
- ・林地未利用材の流通システム構築
- ・農業用ハウス熱エネルギー供給プロジェクト
JAつべつ・農業法人等と連携した再生可能エネルギー活用による施設園芸の実現

モデル地域創生プランの実施によるコンパクトな低炭素シティ・つべつ概要図



※ 上記の紫枠は「木質バイオマスボイラー導入予定箇所」、黄色枠は「熱供給が検討される周辺公共施設」を示します。

<モデル地域創生プラン実施による主な目標値>

分野	指標名	現状値	目標値(目標年)
環境	CO ₂ 排出量	104,000t-CO ₂ /年 (平成25年度)	101,600t-CO ₂ /年 (平成32年度)
	木材・木製品製造業の振興による雇用創出	397人 (平成22年)	3名の増加 (平成32年)
経済	林業・木材加工業の事業所数の現状維持	13事業所 (平成22年)	現状維持 (平成32年)
	農業分野における雇用創出	820人 (平成22年)	2名の増加 (平成32年)
	流出人口の抑制	5,646人 (平成22年)	4,615人 (平成32年)
社会	「まちなか」居住人口の割合(維持)	3,000人 (平成22年)	現状維持 (平成32年)
	町外からの通勤者の町内転居	2,358世帯 (平成22年)	10世帯の増加 (平成32年)

津別町モデル地域創生プラン

「豊かな自然とともに育む環境のまち・つべつ」

1. 津別町の目指す将来像

＜基本目標＞

- ① **地域資源**を活用した再生可能エネルギーの導入・利活用
- ② 持続可能な循環型・**低炭素社会**の構築
- ③ **自然環境**と調和した暮らしとまちづくり

モデル地域創生プランとは・・・？

- 低炭素な地域エネルギーの活用等を中心に「低炭素・循環・自然共生」を統合的に達成することにより、環境・経済・社会に関する様々な地域の課題解決に取り組もうとする構想です。

津別町モデル地域創生プラン

「豊かな自然とともに育む環境のまち・つべつ」

2. 津別町における再エネ施策の取組と現状

平成19年度

- ・津別町バイオマスタウン構想策定
- ・津別単板協同組合(丸玉産業株式会社)
バイオマスエネルギーセンター運用開始



平成21年度

- ・津別町木質ペレット製造施設稼動
- ・役場庁舎等公共施設に木質ペレットボイラー(3台)導入
- ・木質ペレットストーブ・太陽光発電システム導入支援事業開始

平成23年度

- ・津別町森林バイオマス利用推進協議会設立

平成24年度

- ・津別町森林バイオマス熱電利用構想策定

平成27年度

- ・認定こども園に木質ペレットボイラー(1台)導入
- ・津別町モデル地域創生プラン策定



津別町木質ペレット製造施設



ペレット製造施設



ペレット製造施設(外観)



出荷(小袋15kg・一般販売)

➤ 経営者

津別町ペレット協同組合(H21年度設立)

代表理事 山上 裕靖 ※町との指定管理

➤ ペレット製造能力:1,500t/年

➤ H26年度稼働日数:175日

➤ 作業員:2名 ※繁忙期等は応援有

➤ 原料:主にカラマツ(町内産)

➤ 原料の調達

津別地区林業協同組合

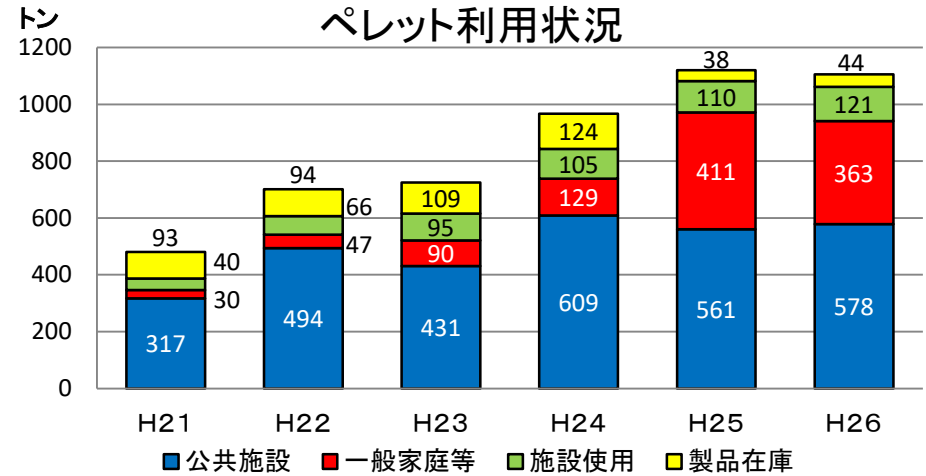
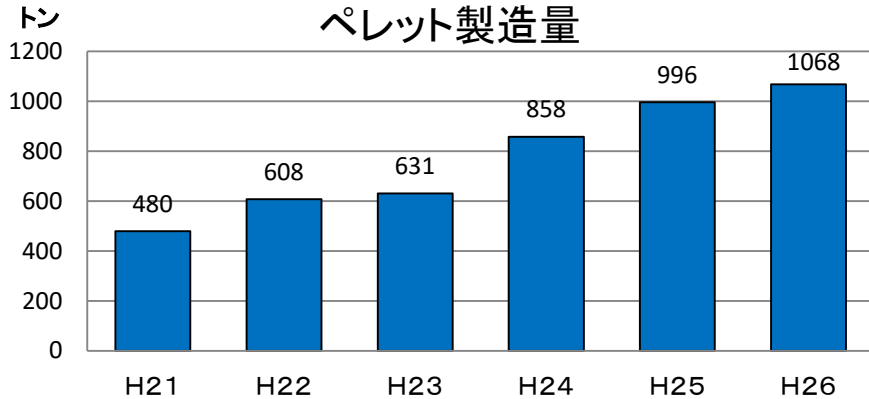
北見広域森林組合 他



出荷
(フレコン500kg・公共施設等)

津別町ペレット協同組合の運営

【ペレット製造・利用状況】



【ペレットボイラー導入状況】

年度	導入施設	導入設備	規模	木質ペレット使用量				
21	役場庁舎	ペレット蒸気ボイラー	0.4t/h (H26)	44 t (H25)	36 t (H24)	52 t (H23)	33 t	
21	中央公民館・農トレ・温水プール	ペレット温水ボイラー	50万kcal/h (H26)	288 t (H25)	288 t (H24)	275 t (H23)	221 t	
21	特別養護老人ホーム・デイサービス	ペレット温水ボイラー	50万kcal/h (H26)	246 t (H25)	237 t (H24)	282 t (H23)	177 t	
26	認定こども園	ペレット温水ボイラー	20万kcal/h (H26)	8 t	※H26年度は3月のみ稼動			

【ペレットストーブ導入状況】

年度	住宅	事務所等	合計	補助金額合計	補助率
21	3台	2台	5台	880,000円	1/2以内 200千円上限
22	2台	2台	4台	641,000円	1/2以内 200千円上限
23	1台	0台	1台	170,000円	1/2以内 200千円上限
24	1台	2台	3台	750,000円	2/3以内 250千円上限
25	3台	0台	3台	508,000円	2/3以内 250千円上限
26	1台	0台	1台	200,000円	2/3以内 250千円上限
計	11台	6台	17台	3,149,000円	

津別町木質ペレット

販売単価(kg当り・税別)

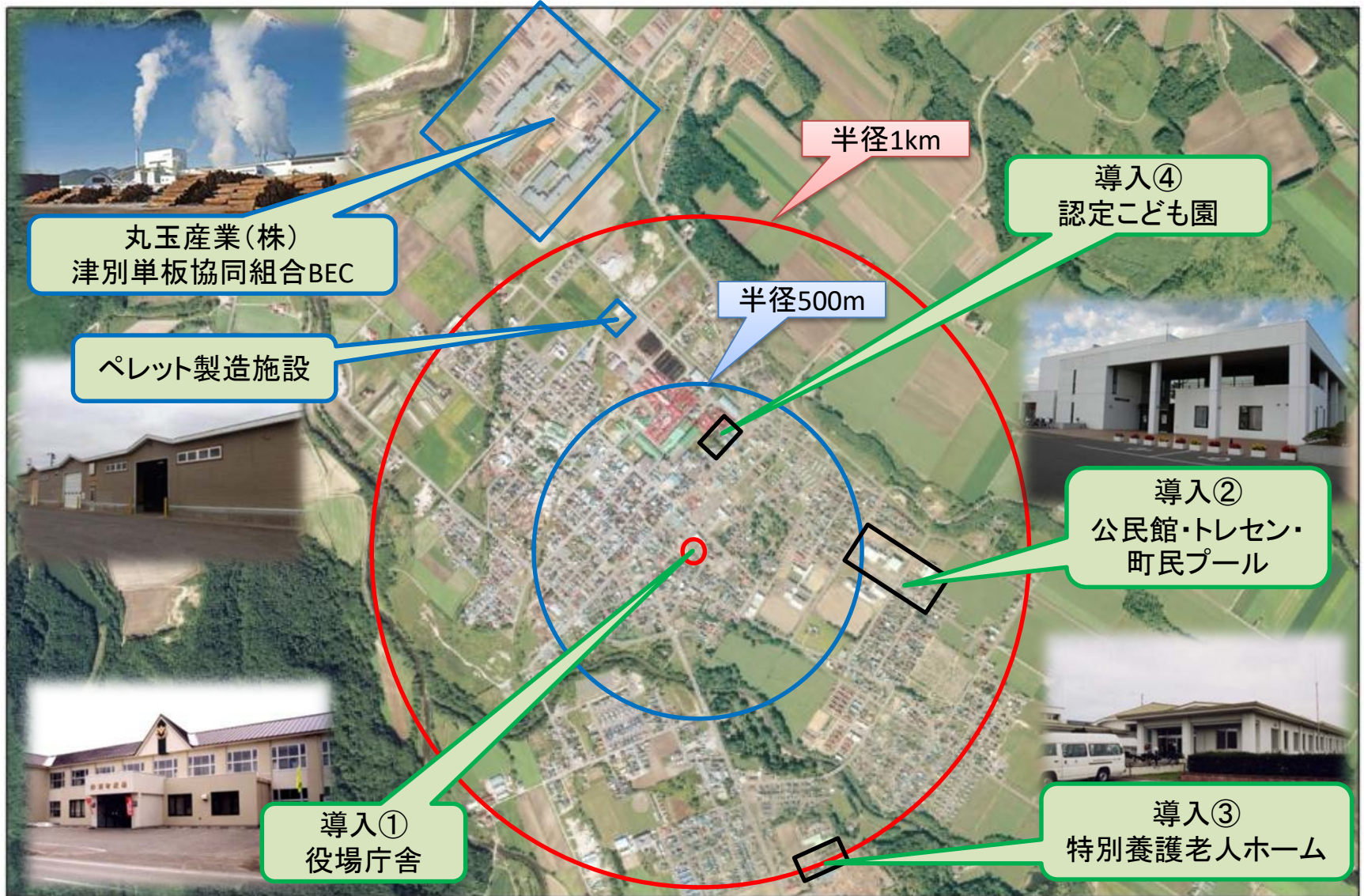
□ 公共施設 54円(運搬・灰回収含)

□ 一般(町内) 42円(工場渡し)



木質バイオマス導入施設【既存】

(平成27年度現在)



600 300 0 600メートル

1:15,000



公共施設への木質バイオマスの導入 【認定こども園】

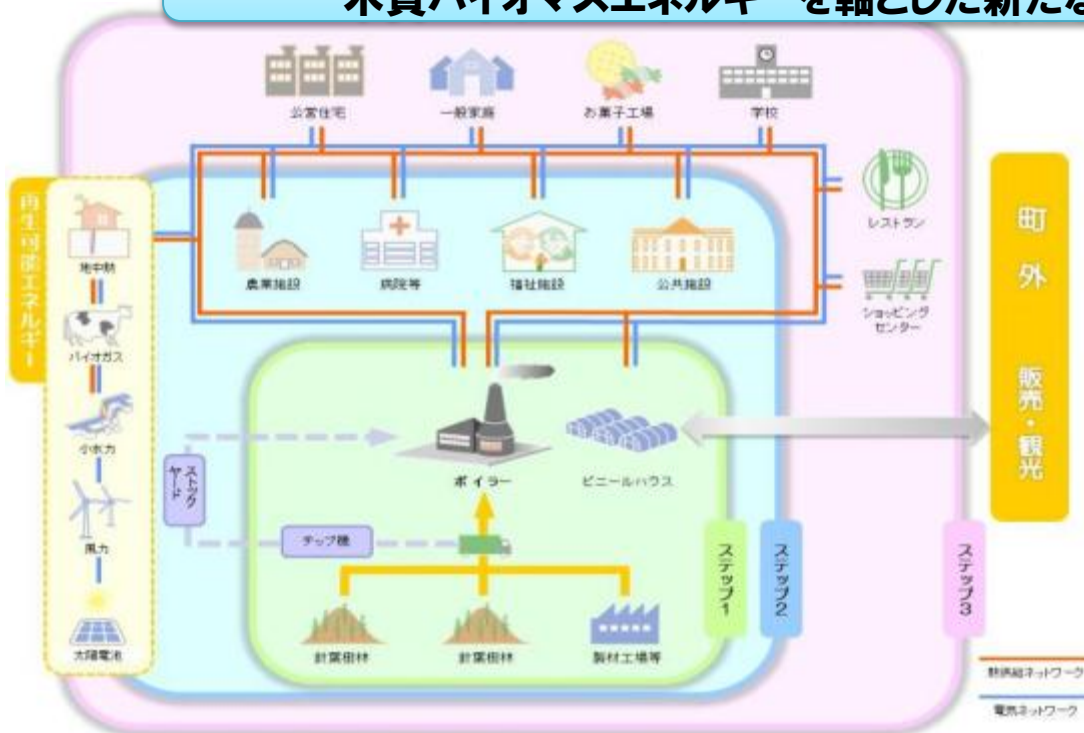
- 認定こども園類型: 幼保連携型
- 設置・運営主体: 社会福祉法人夢つべつ
- 敷地面積: 8, 780. 78平方メートル
- 構造: 木造平屋建
- 床面積: 1, 676. 32平方メートル
- 木材使用量: 624立方メートル
- うち地域材使用量: 578立方メートル
- 使用樹種: カラマツ、トドマツほか
- 暖房: 木質ペレット燃料焚全自動温水ボイラー
(20万kcal/h) 年間使用量42トン(H27実績)



津別町森林バイオマス熱電利用構想

- ステップ1: 農業等における熱エネルギーの有効活用策の検討
林地未利用材確保に向けた収集・運搬方法の検討(低コスト安定供給体制の構築)
- ステップ2: 周辺の公共施設等への熱電利用先の拡大
他の再生可能エネルギーの複合利用の検討
- ステップ3: 津別町の多様な公共施設などにおいて、木質バイオマスを中心とする再生可能エネルギーを活用したまちづくり

地域の特色を活かした資源循環型による環境にやさしいまちづくり
木質バイオマスエネルギーを軸とした新たな地域産業の振興



津別町での森林バイオマス熱電利用のイメージ



津別町モデル地域創生プラン

「豊かな自然とともに育む環境のまち・つべつ」

3. モデル地域創生プランで今後取り組む事業

① 公共施設等への再生可能エネルギーの導入

・西町団地プロジェクト

公営住宅の木質バイオマスによる集中暖房システムの整備

・再生可能エネルギー等の導入促進

既存公共施設等における熱利用設備の木質バイオマスボイラーへの転換

・まちなか再生プロジェクト

役場庁舎の複合化に伴う、木質バイオマス等の再生可能エネルギーシステムの構築

西町団地プロジェクト

【集中暖房システムの導入】

新しいエネルギーと共に、理想のコミュニティを育む配置計画

エネルギーの家

- 木質ペレットボイラー(10万kcal)
- 灯油ボイラー(バックアップ用)
- 年間ペレット使用見込み量 30トン

津別の木を活かした、津別スタイルの住宅は、新しくも懐かしさを感じる、津別の風景をつくる。



敷地概要	公営住宅		地域優良賃貸住宅	
	A棟	B棟	C棟	D棟
敷地面積 (㎡)	4,622			
延床面積 (㎡)	303.70	273.05	472.71	122.96
建築面積 (㎡)	326.73	300.51	424.37	143.19
緑地率 (%)	39.6			



私達は、現在までの津別公営住宅の実績を、津別スタイルと認識しています。特に公営住宅の性能とデザインは、民間住宅の質向上の一端を担えるモデルと考えています。住戸内は、温熱環境の充実と、暮し環境の充実を第一と考えています。



津別スタイルとは、住棟で囲む、囲み型のオープンスペースと児童遊園、木造平屋のフラットルーフ、板張りガルバリウム鋼板のコンビネーションによる外部デザイン。

※平成28年度建設中

津別町モデル地域創生プラン

「豊かな自然とともに育む環境のまち・つべつ」

3. モデル地域創生プランで今後取り組む事業

②公民連携による木質バイオマスを活用した熱エネルギーの供給

・津別町再生可能エネルギーマネジメントセンター (仮称)の設置

再生可能エネルギー導入のマネジメントを請け負う公民連携事業体の設置

・林地未利用材の流通システム構築

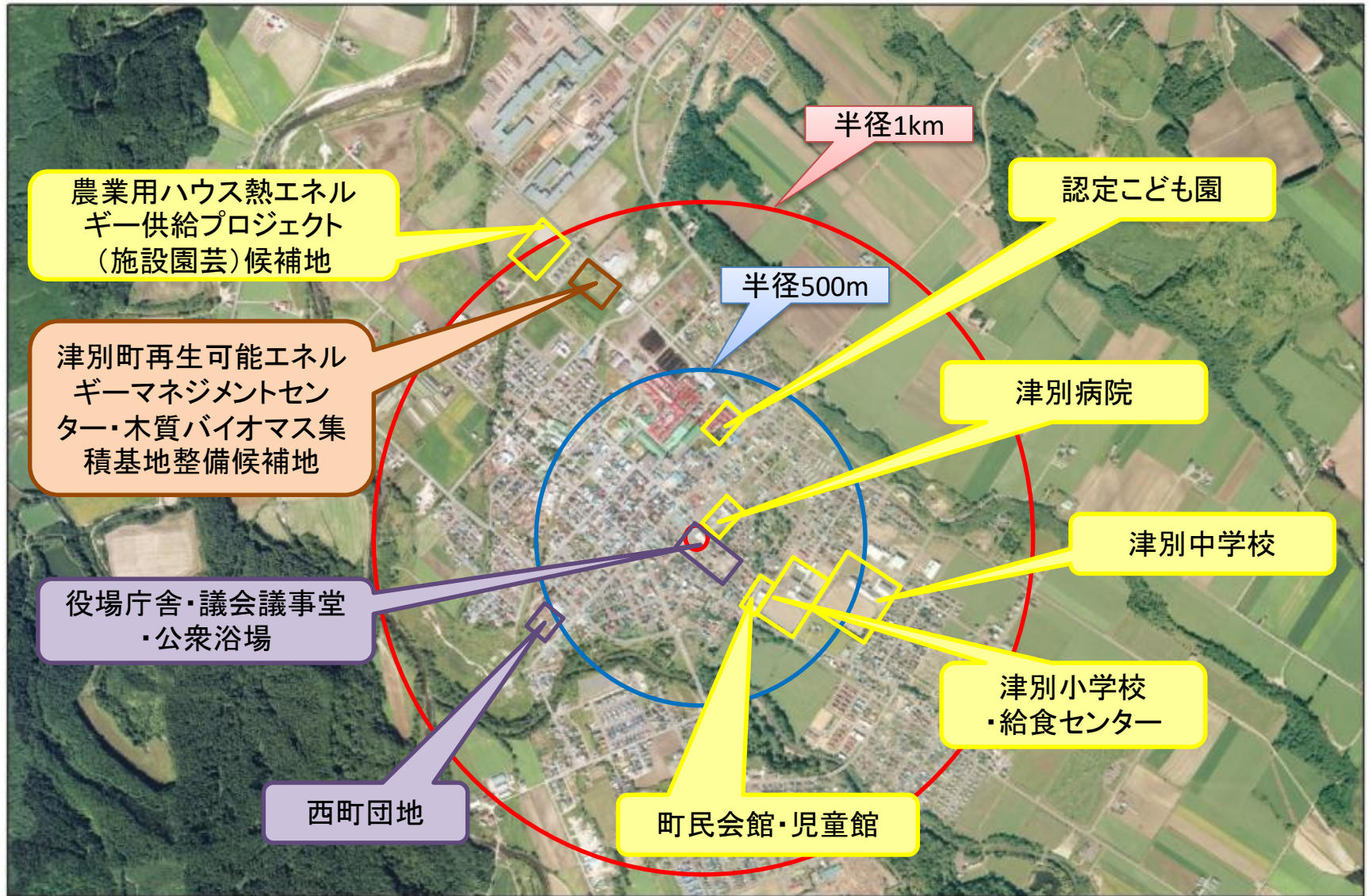
町内で運用される木質バイオマス設備への安定的燃料供給

・農業用ハウス熱エネルギー供給プロジェクト

JAつべつ・農業法人等と連携した再生可能エネルギー活用による施設園芸の実現

コンパクトな低炭素シティ・つべつ

概要図



※上記の紫枠は「木質バイオマスボイラー導入予定箇所」、黄色枠は「熱供給が検討される周辺公共施設」を示します。

プランのロードマップ

施策	事業	H28	H29	H30	H31	H32
A 公共施設等への再生可能エネルギーの導入	A-1 西町団地プロジェクト (公営住宅の木質バイオマスによる集中暖房システム整備)	詳細設計・建設	実施・運営			
	A-2 再生可能エネルギー等の導入促進 (既存公共施設等における熱利用設備の木質バイオマスボイラーへの転換)	全体事業計画立案	順次設計・建設・運用			
	A-3 まちなか再生プロジェクト (役場庁舎の複合化に伴う、木質バイオマス等の再エネシステムの構築)	まちなか再生機能配置検討	再エネ導入調査・勉強会	事業化方針の決定	事業構想策定	事業計画立案
B 公民連携による木質バイオマスを活用した熱エネルギーの供給	B-1 津別町再生可能エネルギーマネジメントセンター(仮称)の設置 (再エネ導入のマネジメントを請け負う公民連携事業体の設置)	基礎調査	事業計画策定	事業会社設立・運用	実施・運営	
	B-2 林地未利用材の流通システムの構築	基礎調査				
	B-3 農業用ハウス熱エネルギー供給プロジェクト (JAつべつ・農業法人等と連携した再エネ活用による施設園芸の実現)	基礎調査	事業計画策定	事業主体設立・運用	実施・運営	

プラン実施による目標値

分野	指標名	現状値	目標値 (目標年)
環境	CO ₂ 排出量	104,000t-CO ₂ /年 (H25年度)	101,600t-CO ₂ /年 (H32年度)
経済	木材・木製品製造業の振興による雇用創出	397人 (H22年)	3名の増加 (H32年)
	林業・木材加工業の事業所数の現状維持	13事業所 (H22年)	現状維持 (H32年)
	農業分野における雇用創出	820人 (H22年)	2名の増加 (H32年)
社会	流出人口の抑制	5,646人 (H22年)	4,615人 (H32年)
	「まちなか」居住人口の割合(維持)	3,000人 (H22年)	現状維持 (H32年)
	町外からの通勤者の町内転居	2,358世帯 (H22年)	10世帯の増加 (H32年)

愛林のまち『津別町』エコタウン構想

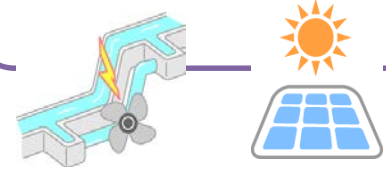
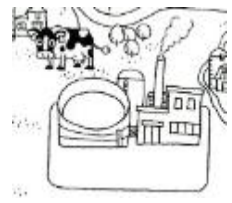
目指すべき姿

【豊かな自然とともに育む環境のまち・つべつ】

- 地域再生可能エネルギーの導入・利活用
- 持続可能な循環型・低炭素社会の構築
- 自然環境と調和した暮らしと町づくり

□ 地域再生可能エネルギーの導入促進

- 町内の各地域に応じた再エネの導入促進
- 太陽光発電やペレットボイラーの導入に支援
- 小水力や畜産系バイオマスの導入も検討

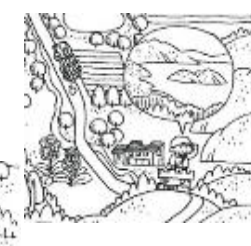
□ 木質バイオマスを活用した熱供給事業

- 木質バイオマスの公共施設等へ熱供給
- 農業ハウスへの熱供給による新たな農産物の栽培
- 木質ペレットの公共施設や事業所、一般家庭等への利用拡大




□ エコタウンの形成と観光資源による地域振興

- 津別峠等の景観や森林セラピー基地、有機農業等の観光資源と木質バイオマスを取り入れた町づくりを組み合わせた新たな観光事業の創出



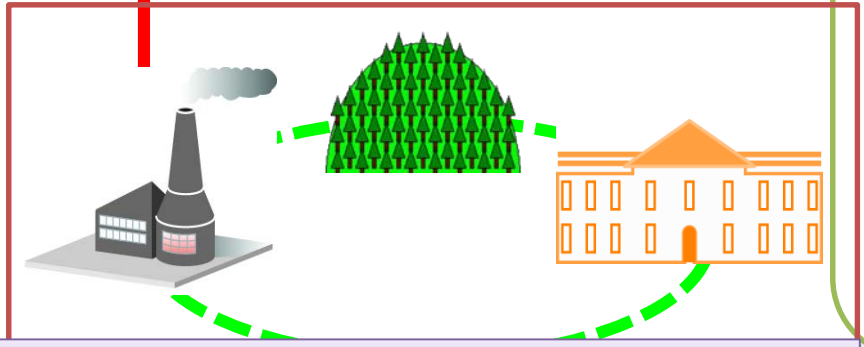
津別町の観光名所「津別峠」



オーガニック牛乳の生産

□ 林地未利用材等木質バイオマスの利用促進による林業振興

- 地域資源の有効活用を促進するため、林地未利用材等の収集体制を整備
- 林地未利用材の集積基地の整備
- 木質ペレット製造の増産



森林が結ぶ地域が連携した低炭素の町づくり



伐って使って植える！
(木材資源の循環)

ペレット製造の増産
(資源の有効活用)

□ 低炭素役場庁舎等複合施設の建設

- 地域材を活用した木造複合施設の建設
- 木質バイオマスを活用したエネルギーの自給自足



□ 低炭素公営住宅の建設

木質バイオマスを活用した集中暖房による公営住宅の建設



木質バイオマスボイラー

□ 公共施設等への再エネ・省エネ導入促進

- 防災拠点・避難施設への再エネ導入
- 街路灯等へのLED照明の導入

ご清聴ありがとうございました

津別町に是非お越しください。
お待ちしております。

